

普及活動情勢報告（令和2年8月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

害虫対策について～JA高知県南国市園芸部中央シシトウ部会反省会～



7月27日、JA高知県南国市園芸部中央シシトウ部会反省会が、南国営農経済センターで開催され、生産者15名が参加しました。農業改良普及課からは、チャノキイロアザミウマ対策、病害虫防除暦、温存ハウスを用いたタバコカスミカメの安定供給体制についてのアンケート中間結果などを部会員に報告しました。生産者からは、「害虫の初発を見逃したらいけない」、「あの薬は思ったよりも天敵に影響がありそう」など現場ならではの情報を共有する場面や、温存ハウス設置を期待する声などがあがり、害虫対策への高い関心が見られました。今後もJAと連携し、シシトウの生産安定に取り組みます。

「ゆず便り」を創刊しました



農業改良普及課は、JA香美地区とともに、物部柚子生産部会員171戸を対象に、栽培管理や地域の動きの情報を紙媒体でまとめた、「ゆず便り」の配布を5月から始めました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため現地検討会など、人を集めて情報を届ける機会が少なくなっています。そこで、「ゆず便り」について聞いたところ、「時期に応じた防除が載っており、参考にして管理している」との声が多く寄せられました。今後は、個別巡回などでいただいた意見を反映させながら、より良い紙面づくりに努めていきます。

JA高知県香美地区なす部会が反省会を開催



7月22日、JA香美地区なす部会が反省会を開催し、生産者17名が参加しました。令和2園芸年度からJA香美地区香我美なす部会は芸西出荷場に横持ちで出荷しています。「例年より秀品率が低下した」という意見がありましたが、「芸西出荷場はカメラで規格を判断しているので、規格に合わせて栽培することが重要である」ということで、参加者は合意しました。農業改良普及課は、天敵利用について説明し、温存植物（クレオメ）の使用を呼びかけました。今後、秀品率向上に向け、灌水量やハウス内の温度調査を行っていきます。

J A 高知県香美地区園芸部ピーマン部会が反省会・栽培講習会を開催



7月29日、J A 香美地区ピーマン部会が、反省会および栽培講習会を開催し、生産者19名が参加しました。

農業改良普及課は、今年度の生育調査結果の報告、安定した生産や出荷を目的とした、収穫量と収穫時間の調査結果と労働時間の試算について説明しました。

生産者からは、「時期によって収穫する間隔を変える」など意欲的な意見も聞かれました。

今後も関係機関と連携し、会の内容が活かせるよう支援していきます。

基礎力アップで経営安定へ



7月21日、農業改良普及課が就農5年目までの新規就農者を対象に第1回農業基礎講座を開催し、11名の参加がありました。今回は、農業経営及び土壌肥料の基礎について講義を行いました。

参加者は熱心に聴講し、アンケート結果では、ほぼ全員が内容を理解できたと回答され、「改めて経営計画を見直そうと思った」「土づくりの参考になった」「土壌について欲しい情報が得られた」といった感想が寄せられました。

農業改良普及課は、引き続き講座を開催し、新規就農者の早期の経営安定に向けて支援していきます。

新規就農計画の実現に向けて就農状況調査を行いました



8月3日から6日にかけて、香美市と農業改良普及課の担い手担当で、ネギ、ニラ、ユズなどを経営する新規就農者12名の就農状況調査を行いました。

目的は就農計画実現のための課題整理と課題解決への取組を支援することで、対象者からは「施設や機械が高い」、「高温や災害により作が安定しない」、「ウイルス病等の病害虫被害が多い」などが共通する課題としてあげられました。

当初目標を達成している方は半数程度でしたが、各自、農業に真摯に向き合っており、営農継続への強い意思が感じられました。

今後、補助事業や技術指導等の担当部署とも連携し、課題解決に向けた個々の取組を重点的に支援していきます。